

兄弟愛の発露

2025年7月6日

ヘブル人への手紙 13章1～3節

序：11章 キリスト降誕以前の信仰者列伝

12章 さらにすぐれたものを持つ新約の聖徒たちの信仰生活

- (1)信仰の創始者であり完成者イエス・キリストから目を離さないで
- (2)父の懲らしめ、霊的訓練
- (3)聖められること、きよい生活
- (4)上にあるもの、天に属するものをキリストとともに相続
- (5)やがて行く御国の祝福と不従順な者への刑罰（永遠のさばき）

13章 戒め、祈り、結び

I. 兄弟愛を常に保て

ローマ 12・10 兄弟愛をもって心から互いに愛し合いなさい。

ペテロⅠ 1・22 あなたがたは真理に従うことによってたましいを清め、偽りのない兄弟愛を抱くようになったのですから、きよい心で互いに熱く愛し合いなさい。

3・8 最後に言います。みな一つ思いになり、同情し合い、兄弟愛を示し、心の優しい人となり、謙虚でありなさい。

ペテロⅡ 1・5～7 だからこそ、あなたがたはあらゆる熱意を傾けて、信仰には徳を、徳には知識を、知識には自制を、自制には忍耐を、忍耐には敬虔を、敬虔には兄弟愛を、兄弟愛には愛を加えなさい。

テサロニケⅠ 4・9 兄弟愛については、あなたがたに書き送る必要がありません。あなたがたこそ、互いに愛し合うことを神から教えられた人たちで、マケドニア全土のすべての兄弟たちに對してそれを実行しているからです。兄弟たち、あなたがたに勧めます。ますます豊かにそれを行いなさい。

(1)兄弟愛は信仰者のうちに築き上げられる新しい性質のうち、愛に次ぐものである

(2)兄弟愛は、単なる観念や思いではない。言動において具体的に現されるもの

(3)兄弟愛は「互いに」であって、一方通行ではない。まず、自分から先に働きかけることで、相互の交流が始まる

(4)兄弟愛は偽りや人間の罪深い肉の欲からは生まれない。「互いに愛し合う」ことを神から教えられてであり、真理に従うことでたましいが清められた結果である

(5)真の兄弟愛は、神の子どもの特性であり、成人の信者のあかしである

∴ねたみ、利己心、悪意から、解放された状態

II. 兄弟愛の発露Ⅰ：旅人をもてなす

ローマ 12：13 聖徒たちの必要をともに満たし、努めて人をもてなしなさい

ペテロⅠ 4・9 不平を言わないで、互いにもてなし合いなさい

マタイ 25・35 あなたがたはわたしが空腹であったときに食べ物を与え、
渇いていたときに飲ませ、旅人であったときに宿を貸し……

テモテⅠ 3・2 監督は……慎み深く、礼儀正しく、よくもてなし、……

テトス 1・7 (監督は) ……むしろ、人をよくもてなし、善を愛し、……

創世記 18・1～15 アブラハムは三人の旅人をもてなした そのうちの一人は、主の御使い、イサク誕生の予告。

19・1～26 ロトも二人の御使いをもてなし、ソドムの滅亡から救出

- (1)ユダヤ人にもギリシャ人にも旅人をもてなすことは、高い徳を示す行為
旧約のアブラハム、新約の教会の監督の資格にも求められた
- (2)ローマ帝国内の宿屋は、決して安全ではなかった
キリスト信者は同じ信仰をもつ同信の人の家に宿泊（1泊が妥当）すると安全
- (3)しかし、なりすましの偽信者が無料の食事と宿泊にありつくために、善意を悪用した。「訪れる使徒は、主を受け入れるように受け入れよ。ただし、三日も泊まる者は偽預言者。すぐに去らせよ。」
- (4)だまされた者は、同信だからといっても、その後は安易にもてなさなくなる。
もてなすことに消極的になりすぎないため、「……知らずに御使いたちをもてなした」と実例（アブラハムなど）をあげて、善行を励ました
- (5)もてなしは「努めて」「不平を言わずに」「互いに」なすようにとある
それは、自動的にできるものではなく、心の中で評価されることを期待したのに感謝・賛辞が得られないと不平が出る。「互いに」ではなく、一方が受けるばかりだと長続きしない ふさわしいもてなしは信者ばかりでなく、不信者の心をもやわらげる
「自分がして欲しいように、相手にもしなさい」

Ⅲ. 兄弟愛の発露Ⅱ：囚人やしいたげられている人を思いやる

ヘブル 10・34 あなたがたは牢につながれている人々と苦しみをともし、また自分たちにはもっとすぐれた、いつまでも残る財産があることを知っていたので、自分の財産が奪われても、それを喜んで受け入れました。

ピリピ 2・19～30 パウロの愛弟子、同労者であるテモテ、エパフロディト

2・20 テモテのように私と同じ心になって、真実にあなたがたのことを心配している者はだれもいません。

2・25、30 私は私の兄弟、同労者、戦友であり、あなたがたの使者で、私の必要に仕えてくれたエパフロディトをあなたがたのところに送り返す必要があると考えました。……彼はキリストの働きのために、死ぬばかりになりました。あなたがたが私に仕えることができなかった分を果たすため、いのちの危険を冒したのです。

- (1)刑務所に入れられていた方を見舞ったことによって、本人やご家族とも今も長いお付き合いがある 福音を語ることをさまたげられないことは主の守り
- (2)世界で勃発、継続している戦渦の犠牲者たち、捕虜、拉致された人々は国内外に大勢いる その方々やご家族に思いを寄せ、何らかの行動はとれないものだろうか？ 適切な言動は正確な情報がなければできない
- (3)キリストのからだ＝教会は、1つの器官だけが痛むのではない、体全体が同じ苦痛、癒される喜びを共有する ひとつからだに結ばれていることを自覚するのは、ともに苦しみ、共に喜ぶ時である そういう体験を通して教会は成長する